

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100208		
法人名	株式会社ワタナベ		
事業所名	グループホームゆふの郷		
所在地	福岡市南区長丘1-4-37		
自己評価作成日	令和5年12月29日	評価結果確定日	令和6年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和6年3月1日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

グループホームゆふの郷では、「みんな家族だ。ゆふの郷」を事業者目標に掲げています。人生の最後の場所を安心して過ごして頂けるように、寄り添う介護を目指しています。スタッフのアイデアのもと、季節のレクリエーションや日常の寄り添いにて、ご利用者様とのコミュニケーションを深めています。笑顔の時、体調が悪い時、その時その時のご様子で、ご家族様と共にの気持ちで取り組んでいます。また地域に向けても、同じ気持ちで発信、コミュニケーションをとれる場所として取り組んでいきたい。又運営推進会議を主に、地域の方の声を聞きお互いが必要な情報を共有し、皆が安心出来る生活を目指し取り組んでいきたい。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成26年12月に開設された「グループホームゆふの郷」は本年で10年を迎える。1階に小規模多機能施設を有する建物の、2,3階部分に2ユニットからなる。母体法人は調剤薬局だが、福岡県内にて福祉事業も展開する。商業地域の中の住宅街に位置し、近くには寺塚穴観音や公園などがある。職員は、利用者一人ひとりに合った介護、わくわくするような日常生活の提供、地域に開かれた環境づくりの中で、利用者のペースを大切に、長生きして良かったと思われるような支援を実践している。職員同士のコミュニケーションも良好で、長く勤務している職員も多く、働きやすい職場である。コロナ禍も落ち着きつつあり、さらに地域との付き合いも深めていきたいと管理者は話す。今後も地域に根付いた活躍が期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や行動方針を掲示し、会議時には読み上げている。職員も理解は出来ている。	法人の企業理念、福祉事業部の理念や行動指針に加え、事業所としても「みんな家族だ」というスローガンに基づく理念を掲げている。接遇5原則「挨拶」「表情」「身だしなみ」「態度」「言葉遣い」があり、職員は「基本マナーブック」を携帯している。事業所内に掲示し、毎月の会議で唱和している。入社オリエンテーション時に理念の共有を図っている。職員は各自の個人目標を作成し、年1回管理者と個別面談を行い、振り返りを行っている。全職員が理念に基づいた日々のケアの実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今迄は出来ていなかったが12月から運営会議を開催。グループホームゆふの郷の様子を地域にもお知らせすることが出来ました。これからと思います。	令和5年11月に1階の小規模多機能施設と合同で秋祭りを開催、職員による出し物や、利用者による合唱の披露、豚汁のふるまいなどを、家族や地域の人々と一緒に楽しんだ。また、利用者の家族によるピアノ演奏会を開催したり、コロナ禍にて中断していた学生の介護実習やボランティアの受入を再開したりしている。町内会に加入しており、地域のイベントは回覧板で確認し、利用者がかかわる事ができないか、検討をしている。	このあと、本年3月には地域の春祭りへ利用者に参加する計画があると聞く。また、コロナ禍前には地域の眼鏡屋の方が無料の視力測定のために訪問してくれていたが、久々の再開を検討しているとの話もある。今後、感染状況をみながら地域交流がさらに親密になることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今までは地域に向け発信出来ていなかったため、今後は定期的な運営推進会議からお互いの知恵を提供し地域の手助けになったらと感じております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	12/12より運営推進会議を定期的な開催に向け動きだしました。地域の方への発信、グループホームスタッフも共に参加してもらい、情報共有、意識の向上に繋げていこうように繋げている。	令和5年12月から1階の小規模多機能施設と合同で2か月ごとの定期開催を再開している。自治会長・社協・包括・利用者家族1名・小規模多機能施設の利用者1名が参加している。利用者や事業所の状況の報告に対して、意見、質問などが活発に出され、サービス向上につなげている。地域の情報も得ている。議事録は参加者に郵送する。	運営推進会議に対して家族に関心を持ってもらい、また出席を増やすために、毎月の請求書と一緒に家族に案内や議事録を送ったり、家族が共感できるようなテーマ(たとえば、認知症の薬の現状と情報や、BCPIにつながる防災に対する取組、口腔ケアの取組……など)を毎回絞ったりしてみたいかがか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時は連絡をしている。	行政とは、困難事例、感染症対応、事故報告等の質問や相談等の情報交換をこまめにしている。包括へは空室状況を報告しているが、入居についての相談もある。電話やメールで済ませることが多いが、良好な協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、定期的に職員にはお伝えしている。利用者様の気持ち、安全を考えながら、どんな介護が出来るか職員と一緒に取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに職員全体で取り組んでいる。身体拘束廃止委員会(3ヶ月に1回)や勉強会(年2回)を開催し、職員はユマニチュード技法やスピーチロックを含めて拘束についての認識を共有している。日中の1階玄関、2.3階の内玄関は自動ドアになっており、基本的には施錠はしないが、鍵にカバーを付けるなどの工夫をする。帰宅願望のある方もいるが、無理強いせず、傍で落ち着くまで見守り対応している。	

外部評価(グループホームゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待は勿論、言葉、声掛け方の虐待にも気を配り、日頃から心掛けています。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	中々深い取り組みが出来ておらず、次年度スタッフにも理解出来る環境を作りたいと思う。	以前は成年後見制度を利用している方がいたが、現在、制度検討される方はいない。職員は勉強会を通して認識を共有している。事業所には利用者から求めがあった場合に備えて必要な資料等を常備しており、必要時には管理者が説明して行政につながる体制が整っている。	市など外部機関からDVDレンタルや講師派遣等を活用して、研修内容の充実を図ってみたいだろうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書、重要事項説明書を説明し、ご家族様と対話をとるようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様とお会いした際などお話ししているのが意見を言ってもらえているかは正直分からず。言える機会を提供していくのもこれからの課題と感じます。	面会(感染対策の制限も緩和の方向)時に直接、あるいは電話やLINEを通して、家族から意見や要望を聴き取っている。お便りに写真を添えて毎月送付し、事業所内での様子をお知らせしている。利用者からは日頃のやりとりや会話から意見や要望を受け入れているが、自己発信の難しい方からは表情の変化や家族からの情報により把握に努めている。	家族同士の交流や家族の想いを把握できる方法として、以前行っていた家族会の開催を食事会も兼ねて検討してみたいだろうか(以前は夕方から居酒屋で開催した、と聞くと、家族の時間の都合を考慮すれば、それも是と考える)。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と必要時は話しをしているが、もっと意見を聞く場をもっといいのではと思います。	毎月1回各ユニットで職員会議があり、当日の出勤者が参加、欠席者にも議事録や資料を回覧して情報共有している。ケアの方法や、備品の提案等について要望を出せば速やかに反映されている。職員は、利用者にもいつもと違うところを感じた時などは積極的にあげるようにしている。管理者と年1回の面談もある。管理者が現場にすることが多く、日頃から相談しやすい環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価シートを通し、普段の状況を判断はしており、スタッフの持ち味を出して貰えるように気を配っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員をみても、出来ていると感じます。	職員の年齢層は20～60代と幅広く、法人内での異動もあるが、長く勤めている職員が多い。職員同士のコミュニケーションも良好である。希望休なども取りやすく、休憩時間や休憩スペースも確保されている。資格取得や外部研修の参加に向けた支援されており、自己研鑽に励んでいる。職員は、折り紙や歌、体操やレクリエーションなどに、個々の能力や特技を活かして生き生きと仕事している。	

外部評価(グループホームゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	取り組んでいるも広く研修の幅は出ていない。	認知症高齢者の対応や、虐待防止などについては年間計画を元に研修を実施して、啓発に繋げている。全社で「ユマニチュード」を推進しており、職員は利用者の個性・その人らしさを大事にして接するように心がけている。言葉遣い等で気になった際は、その都度、管理者が指導している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	向上出来るタイミングがきたら、研修の場所を提供はしている。もっと、その人にあつた向上出来る機会を提供を今後は出来たらと感じております。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来ていなかったため、これから同業者と交流の場が出来るように環境の場を作りたいと思います。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様からの事前の情報をもとに、お話を傾聴出来る利用者様は聞き、認知症にて聞き取りが出来ない利用者様は寄り添い察知する事に心掛けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のご事情にあわせ、あつた介護が出来るように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、利用者様をゆふの郷を選んだ理由を考慮しながら、利用者様が、今グループホームが必要であるのか考え、判断している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と共に、スタッフの対応は出来ていると感じる。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様とスタッフがコミュニケーションをとりながら、利用者様が過ごしやすい環境になるように築けていると思う。		

外部評価(グループホームゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室にご家族様のお写真など、又コロナウィルス予防で途切れてしまった事はあるが、お友達から来たお電話、面会の場は大切にしている。	事業所は家族との繋がりを大切にしており、正月に自宅に戻って外泊したり、家族や知人との電話の取次ぎをしたり、昔の住まいや仕事、よく行った場所の事などの懐かしい話をしたり、といった支援を行っている。全員が訪問理美容を利用して、馴染みの店を訪れる事もないが、定期的に顔を合わせる理美容師とは新しい馴染みになりつつある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格の違いを配慮して、お席など工夫して取り組んでいる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様とも、違う形で交流の場をもったり得た出会いは大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活や今の状態に合わせた希望を考慮して行っている。意思疎通がとれない場合は昔の事を話しかけたりにご本人様にあった介助をしている。	アセスメントは独自の様式を使用。入居前は管理者と計画作成担当者が本人・家族からこれまでの生活歴・馴染みの暮らし方・要望・不安なことなどを聞き取り、把握に努めている。思いを表現することが難しい方には、表情・仕草・何気ない言葉などから思いをくみ取り、本人本位に検討している。ケアプラン更新時や状況が変化した際には、計画作成担当者が、随時アセスメントの更新を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活や今の状態に合わせた希望を考慮して行っている。意思疎通がとれない場合は昔の事を話しかけたりにご本人様にあった介助をしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェック・精神状態の変化、他の関係機関と連携を図りながら、把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当を中心にフロアーリーダーにおろし、スタッフ皆で取り組んでいる。	計画作成担当者と担当職員が意見をまとめ、ケアプランやモニタリングの作成を行う。ケアプランは、担当医らにかかわる多職種の人々および家族の意見を取り入れたうえで、半年～1年で見直しを行う。担当職員は、日々のケアに加えて、衣替えの支援や誕生日の準備なども行っている。毎日のケース記録記入の際はケアプランやアセスメント等を参照しやすくしており、全員にケアプラン目標の共有が図られている。	

外部評価(グループホームゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気が付いた時は申し送りなどで意見を言い実践に結びつけている。計画作成担当に報告し早い対応を心掛けている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事例に応じて、取り入れられるサービスを考え適切な対応が出来るように取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源については把握をしていきたいと思います。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	3か所のクリニックと契約しており、連携をとり、ご家族様と相談しながら、利用者様の状態に合わせてながら方針を決めている。	もともとのかかりつけ医を希望される方は継続も可能だが、全利用者が提携医による訪問診療を利用している。緊急時には24時間対応が可能。歯科医の訪問診療もある。緊急時以外の他科受診は家族に受診をお願いしているが、難しい場合は事業所が通院介助している。事業所に看護師も勤務しており、日常的な体調管理や緊急時の対応ができています。職員間でも情報を共有し、家族への報告もこまめに行っており、家族の安心に繋がっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員から看護師への報告は出来ている。そして看護師の指示により適切な対応をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院のSWと相談しながら対応している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関と連携のもと、ご家族様のご意向を大切に、ご家族様が望む形で終末期の対応をしている。	看取り指針を定めており、希望があれば最期まで支援する方針で、入居時にその指針を書面にて説明している。家族や医師と話し合いを重ねて方向を決め、看取りを行うことになった時には書面にて説明し同意書をもらう。ここ1年間で2名の看取りを行っている。看取りケアについては勉強会で情報共有し、看取り後に職員に振り返りをし、管理者は職員のメンタル面にも気遣っている。	

外部評価(グループホームゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	クリニックから研修を受け、対応の幅を広げている。又施設内の研修も行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修にて避難訓練を行っている。運営推進会議にて、非常時の地域への応援も話しもさせて頂きました。	災害マニュアルやBCPは策定している。年2回(消防か建物の管理会社が立ち合う)避難訓練を行い(小規模多機能施設と合同)、消防署に報告をしている。夜間想定中心で訓練し、その都度、職員間で話し合いを行い、防災知識の向上を図っている。地域の避難訓練の参加は小規模多機能施設の職員が参加して情報共有を行っている。	家族や地域の方に事業所の取り組みを知って安心してもらえるように、運営推進会議などで避難訓練参加を案内していただきたい。備蓄は水に限っており、食品などの補充に加えて、賞味期限の管理も含め徹底をお願いしたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である気持ちを持ち接させて頂いている。	接遇5原則「挨拶」「表情」「身だしなみ」「態度」「言葉遣い」を掲げ、また職員に「基本マナーブック」を配布して徹底している。日々の業務の中での言葉遣い等、気になる言動があった際は、その都度、管理者が指導している。接遇やユマニチュード等の勉強会を定期的実施し、羞恥心に配慮したケアも意識している。契約時に写真等の利用を含めた個人情報の利用に際しては、目的を明示し、書面で同意を得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望に耳を傾けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様にあったペースで1人1人の違いを受け止め接している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の日々もだが、お誕生日、イベント等洋服の色、髪など身だしなみを支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備などは難しいも、ご本人様の好みは大切にし、ご家族様に好きなものを持ってきて頂いたり、喜ばれるように心掛けている。	外部の業者より調理済みの食材が届き、事業所にて調理専属の職員が加熱・盛り付けを行う。ご飯は事業所で炊く。日曜の朝食はパンにしている。毎食栄養バランスの取れた食事を、各利用者の嚥下状態に合わせた形態で提供する。アレルギーなどへの対応も可。利用者も、日常的な配下膳やテーブル拭きのお手伝いに加え、おやつレクでのホットケーキ・たこ焼き作りは率先して職員と一緒にやっている。家庭的な雰囲気を楽しむため、食器はインパクトのある陶器を使用している。職員は別でそれぞれが準備した物を摂るが、その場での見守りや介助を通して、食事を楽しんでもらえるよう努めている。	

外部評価(グループホームゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態や体重、飲み込みであったり、1人1人に考慮して支援をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア、又訪問歯科も希望者ではあるが診て頂いている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の状態にあわせ、支援を行っている。	トイレ(各ユニット3か所ずつあり、2ヶ所は車いすの介助が十分な広さを有する。夜間のポータブルトイレの利用もある)での自立した排泄に向けた支援を行っている。1枚で利用者全員24時間管理できる排泄チェック表があり、職員は確認しながら、利用者それぞれのタイミングを把握する。介助方法に加えて、パンツ、おむつ、パッドなどの使用についても、改善の方向で提案をして話し合いをしながら実践している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全てとはいかないが下剤に頼らず、牛乳など食べ物、自然な形で排泄が出来る様に提供、心掛けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日は決まっているも、1人1人のその日の様子をみて判断をしている。	3階はユニットバス(お湯は毎回入れ替えている)、2階は機械浴にて、利用者の状態に合わせて、ユニットにこだわらずに入浴している。週2回午前中の中の入浴を基本としているが、利用者の希望や体調に配慮しながら柔軟に対応している。拒まれた際も無理強いせず、タイミングが合う時に提供し、清潔な状態が保てるように支援している。職員は皮膚の状態を含めて体調の観察もしており、何かあった際にはすぐに医師や看護師との連携も取れるようにするとともに、入浴は大事なコミュニケーションの場としている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調又体力を考慮して休息してもらっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に介護士と情報共有をして申し送りノート、又口頭にてお伝えしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの趣味や、してきた仕事であったりレクリエーションの時などは発揮してもらっている。好きな食べ物は召し上がってもらっている。		

外部評価(グループホームゆふの郷)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事でドライブ等、又必要に応じて施設周辺を散歩に行っている。	感染予防に配慮しながら、少人数で、桜などの季節の花や紅葉(油山観音など)を観にドライブに行っている。正月は家族の支援により自宅に帰宅した方もいる。日頃から天気の良い日は、事業所の周辺を散歩したり、2階のテラスでティータイムを兼ねた外気浴を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は立替、施設請求と一緒にしており、希望時はご家族様に確認して購入している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人的なスマートフォンや必要時は施設電話より行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファ類の位置や又室温、光の状態などには気を配りながら行っている。	2,3階の各ユニットはほぼ同じレイアウトで、食堂は大きめの窓からの採光が良く、開放感がある。職員は換気や掃除に努めている。食堂にソファが配置され、それぞれが好きなスペースでゆったりと過ごしている。廊下には利用者と一緒に、趣向を凝らして製作した飾りつけがなされ、季節を感じさせるとともに、作った時の楽しそうな表情が思い浮かぶ。2階のテラスではプランターで花を育てている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	性格を考え座る位置であったり、本人のペースで自由に居室にも行ってもらっている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族様に馴染みのものを持ってきて頂いたり、担当スタッフが気を配り、過ごしやすくタンズの中やレイアウトも工夫している。	各居室は日当たりがよく、6畳程の洋間フローリングで介護ベッド、エアコン、収納棚が備え付けられている。使い慣れた家具や遺影などを持ち込んだり、家族の写真を飾ったりして、職員も安全なレイアウトに気を配るなど、利用者が心地よく過ごせるように工夫をしている。各居室の表札には職員が製作した折り紙が飾られており、温かみがある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内、特にフロー内は安全に過ごして貰えるように、足元に気を配り、行っている。		